



写真：1年1組 白杵 俊「夜景」

1.	図書館の忘れられない1冊	説間キャンパス図書館長 南 貴之	2
2.	文芸コンクール入賞結果発表《詫間》		3
3.	講評		3
4.	入賞作品紹介		
	エッセイ	【グランプリ】 通信ネットワーク工学科2年 林 武幸	5
	短歌	【最優秀賞】 通信ネットワーク工学科5年 佐野 圭亮	6
		【優秀賞】 1年2組 三好 克己	
	俳句	【最優秀賞】 1年1組 多田 紘基	
		【優秀賞】 情報工学科2年 馬場 裕一	
		【優秀賞】 通信ネットワーク工学科3年 原 和	
	写真・イラスト	【最優秀賞】 1年1組 白杵 俊	
		【優秀賞】 通信ネットワーク工学科2年 今井 菜乃	
5.	本にまつわるエッセイ《高松》	【優秀賞】 創造工学専攻2年 西岡 一樹	7
6.	教員・学生による推薦図書 全26編（教員9編、学生17編）		10
7.	教員によるエッセイ	高松キャンパス機械電子工学科 相馬 岳	14
8.	図書委員長より		15
9.	専攻科生より		16
10.	ブックハンティング紹介		17
11.	ビブリオバトル紹介		18
	図書館からのお知らせ		18

# 図書館の忘れられない一冊

詫間キャンパス  
図書館長 南 貴之



私が詫間に来てから早いもので40年近くになります。赴任したところは図書館棟の2階が閲覧室と書庫で、1階は学生課でした。

2階の図書室は主に書棚と閲覧室でしたが、その他にも書棚に納められないほど多量の書籍があり、事務室の後方に閉架式の書庫が設置されていました。書庫には何度か入ったことがあります。書棚がぎっしりと隙間もなく並べられていて、そのままでは本を見ることさえできない状態でした。

それで本をどうやって取り出すのかと言うと、書棚が移動式になっていて、隅の方にあるハンドルを回すと端の棚が移動して、人ひとり分の隙間ができるようになります。さらに回すと隙間が移動して、必要な棚が閲覧できるようになっていました。

各書棚にはラベルがついているので、必要な本はあらかじめ蔵書検索システムにてチェックしておけばどの棚を見ればよいかわかります。

この蔵書検索も、当時は当たり前であった紙のカード式でした。カードは木製の棚に納められていて、書名ごとに分けられた引き出しの中に入っていたと思います。

現在の蔵書検索システムからは想像もできないでしょうが、欲しい本があるかどうかは図書館の2階まで来てカードを確認する必要がありました。面倒ではありましたが、そこでいろいろ調べていると、結構珍しい本が所蔵されていることがわかりました。

私の専門は数学なので、特に数学書を中心に検索します。

専門書は購入層が限られるため、教科書のように多数が購入するものを除けばすぐに絶版になります。そのため、内容が優れていても手に入らないことは多々あるので、昔に図書館で購入された本の中には珍しいものが多いです。

ある時、その中でも特に貴重な本を見つけました。

岡村博著「微分方程式序説」(森北出版)です。この本は2003年に共立出版から再刊されましたが、それまでは「幻の名著」とされていたものです。

内容は、微分方程式の解の一意性についての必要十分条件を求めることに1冊を費やしたという、とてもマニアックなものですが、それ以外にも山口昌哉先生の序文を読んで驚いたことがあります。

皆さんは近代史で終戦直後の状況について書かれたものを読んだことがあるでしょう。その中に、食料等の配給制度についての記述があったと思います。戦争による物資不足に対応するために、米や味噌、砂糖等の食べ物や衣類などの物資を割り当てて配る制度のことです。食料は家族の人数により買える量が決められ、衣類は世帯単位で配られる切符と引き換えに商品を買う仕組みですが、一度に手に入る量は限られ、その回数も十分ではありませんでした。

そのため、多くの人は、闇市と言われる非合法的な市場で食料を手に入れて飢えをしのいだようです。

この時代を描いた本や映画などの中に「大学の先生が闇市の食料をとらないで餓死した」といううわさが流れたことを描いたものがあります。

実は、この先生こそが著者の岡村博(当時京都帝国大学教授)なのです。なお、著者は餓死ではなく闇市の物資を口にしないことによる栄養失調により亡くなりました。

序文には学生(山口)からの質問に真摯に答えを探して、完全に回答ができるまで何日も付き合ったなど、著者の生真面目な人柄が生き生きと描かれています。42歳の若さで亡くなった当時の状況が詳しく描かれていて、本文にもまして感銘を受けました。

ところで肝心の本書の内容です。微分方程式というのは、例えばニュートンの運動方程式を思い出していただければよいと思います。それを一般化したものです。ボールを投げると手から離れた時の位置と速度によりその後の運動が決まりますが、同じ条件なら同じ軌道を描くことがわかっています。これを初期値問題の解の一意性と言います。この場合の初期値とは、位置と速度の値です。

このように、同じ初期値を持つならその後も同じ軌道を描くような方程式は初期値問題の一意性を満たすと言います。

しかし、数学的には初期値問題の一意性を満たさない例は簡単に作れるので、どのような場合に一意性が満たされるかは1940年当時の大きな問題でした。

今日では(当時も)初期値問題の一意性の十分条件は広く知られていて、リップシッツ連続性というものがあります。ですが、これは十分条件ではないことも知られていました。ここに、世界で最初に岡村教授が必要十分条件を求めたのです。

本書の内容は細かい議論の連続で、決して読みやすくはないですが、微分方程式の基礎から始まり、解の存在ととき、第6章では初期値問題の解の一意性に関する研究結果を収録しています。

その結果、求める必要十分条件はある関数の存在と同値である、ということが得られました。この関数は現在岡村関数と呼ばれていますが、実はロシアのリアプノフによるリアプノフ関数と同じものです。

このことはすでに序文に書かれていたのですが、幻の名著として期待していただけに、少しがっかりしました。後に「岩波数学辞典」に岡村関数についての記述があることを知り、本書の価値は原典としての部分が大きいことを理解しました。

ここで著者の名誉のために付け加えておくと、リアプノフ関数は初期値問題とは無関係に解の安定性の十分条件において導入されたものです。一意性については間違いなく著者の世界初の功績です。

ところで、上にあげたように内容には落胆した部分があるのですが、私は、実はこの本を2冊所有しています。1つは図書館が廃棄する際に希望者がもらい受ける制度を利用したものです。また、再刊されたものも買いました。

それは、著者の淡々と進める語り口と、その裏にある厳しさが伝わってくるからです。さらに、すべてが岡村関数を中心に組み立てられているという見通しのよさが優れています。また、特別な発想によるのではなく、着実な思考の積み重ねにより理論を作られているところが見事です。このような数学書はなかなか見当たりません。



## 文芸コンクール 入賞結果発表〈詫間キャンパス〉

第8回図書館文芸コンクール入賞者表彰式を、12月21日（木）に詫間キャンパスで実施しました。入賞者の出席者は最優秀賞の4名のみとしました。入賞者は以下のとおりです。  
 (グランプリ受賞者は欠席)



### 【詫間キャンパス】……………

#### エッセイ

グランプリ	通信ネットワーク工学科2年	林 武幸
優秀賞	1年2組	松本 悠臣

#### 小説

最優秀賞	1年2組	中村 一樹
優秀賞	1年2組	小笠原 環

#### 短歌

最優秀賞	通信ネットワーク工学科5年	佐野 圭亮
優秀賞	1年2組	三好 克己

#### 俳句

最優秀賞	1年1組	多田 紘基
優秀賞	情報工学科2年	馬場 裕一
優秀賞	通信ネットワーク工学科3年	原 和

#### 写真・イラスト

最優秀賞	1年1組	臼杵 俊
優秀賞	通信ネットワーク工学科2年	今井 菜乃

## 講評

### 詫間キャンパス 一般教育科 国語科

図書館文芸コンクールも第8回を迎え、154名からの応募作品が集まった。以下、受賞者を中心として、部門ごとにコメントを付していく。

#### ・文芸評論部門

今回、応募数は0であった。文芸評論は本二冊を対象とし、共通するテーマを読み取り、自分の意見を論じるというものである。「本の感想を綴る読書感想文とは異なる」と強調していたが、それに戸惑い、敬遠される分野となってしまったようだ。しかし、本に向き合い思考す

るという機会は、読書離れが進む現代においては貴重なものと言えよう。新たな挑戦と捉え、是非挑戦してもらいたい。次年度の応募に期待する。

#### ・エッセイ部門

特に決まりがなく、自由に思いを書き綴ることが許されるもの、それがエッセイである。決まりがないからこそ、自身の主張を読み手に届けるために文章を練り上げることが求められる。最優秀賞である林武幸さんの作品は、家族とのエピソードを軸に据え、人との関わり、社会のあり方へと思考を広げている。文章が明快で読みやすく、まっすぐに自分の考えを訴える。その優れた文章の構成力を評価し、今回の文芸コンクールのグランプリ作品として選出した。優秀賞の松本悠臣さんの作品は、自分の経験からスタートし、文献を引きながら人間の視



野、認識の問題を考察する。知の積み重ねの過程を、一つの文章としてまとめあげた点を評価した。

#### ・小説部門

今年度の小説部門は、日常の切り取りからミステリー作品まで、幅広いジャンルの作品が集まった。昨年度に比べると、ストーリー展開に重きを置く作品が目立った印象を受けた。最優秀賞の中村一樹さんの作品は、主人公が夏休みに祖父宅へ出かけることをきっかけに、化け狐との邂逅を果たす様を描く。日常が徐々に非日常へと変わっていく様子の描写を、団扇や提灯といったさりげない小物表現が効果的に支えている。読み手を引きつける文章としての仕上がりが評価に繋がった。小笠原環さんの作品は、短い作品であるが、時間とともに主人公の心情が刻々と変わる様子をリアルに捉えている。まさに「進む」日の様子を描きだすことに成功している。

なお、応募作品の中には続くことを前提としているのか、途中で終わっているような作品もあり、その点が残念に思われた。勿論「取えて中途半端な形で終わる」という手法もあるが、まずは世界を閉じることを目指してもらいたい。

#### ・短歌部門

今回は短歌部門・俳句部門ともに「音」をテーマとした。韻文の分野においてリズムは不可欠な要素であり、親和性の高いテーマであるものの、聴覚的な要素を如何にして表現の中に置き換えるかは創作上のポイントとなったことだろう。受賞作品は様々な観点から、「音」を捉え、工夫をもって作品の中に落とし込むことに成功している。言葉のリズム、音の重なりなど、韻文の利点を活かした表現を作り上げていた。最優秀賞である佐野圭亮さんの作品は、慣れ親しんだ場所を離れる寂しさを秋の祭を準備する音によせて詠む。「ししまい」「ししまい」と似た音の重なりによって同時にリズムも作っているという点に、表現の試行錯誤の過程が感じられる。優秀賞である三好克己さんは、音のズレをテーマにする。花火の音が、実際に打ち上げたもの、現地で観客が聞くもの、テレビで視聴するものと、少しずつずれていく面白さをひとつ、ふたつ、とテンポよく表現する点を評価した。

#### ・俳句部門

例年同様、最も応募数の多い部門であり、307句が集まった。今回は五・七・五という限られた文字数の中で音を表現しながら、なおかつ情景をイメージさせることに苦労した様子が見受けられる。季語が含まれない無季俳句が多く、詠み手の心情が前面化したものが目立った。無季俳句も一つの形ではあるが、俳句というジャンルで

ある以上、季節性は大切にしてほしい。今回の受賞作品は、音によって季節性を示す方法が評価のポイントとなっている。最優秀作品である多田紘基さんの作品は、夏の夜の情景を描写する。蚊の羽音という聴覚要素だけではなく、線香の香りという嗅覚の要素を盛り込んでおり、重層的な表現を作り上げている。優秀賞の馬場裕一さんは、季節外れの様子を示した秋を蟬の声で表現する。また原和さんは、夕立に負けない熱気を示す甲子園の情景を表現した。いずれも情景を即座に思い浮かべることができる作品として、表現が練り上げられている。

生成AIの発展で、キーワードを入力するだけで自由に文章を表現することができるようになった。今回、募集要項にはこれらの使用を禁止したが、「計算を補助するための電卓のようなもの」というような認識で、使用したいと感じる人も多いことだろう。確かに生成AIを補助ツールとしての活用は有効であるものの、学習された先人の経験に基づく結果であることを忘れてはいけない。自分の独創性を重視し、作品に向き合う姿勢を大切にしてもらいたい。例えそれが拙いものであったとしても、自身の思いを自分の言葉で伝えることは、普遍的な意味をもつはずである。表現する場、文芸の世界に触れる場として、文芸コンクールが機能することを国語科としては願っている。



# 入賞作品紹介

〈詫間キャンパス エッセイ〉

グランプリ

共に生きる

通信ネットワーク工学科2年 林 武幸

「サトちゃん写真撮らんとって。」

「サトちゃん」とは、私の叔母に当たる人である。小さいころに心臓の病気にかかり、それが原因で脳に損傷を負い知的障害者になった。私が生まれた時から、ずっと一緒に暮らしている。家族みんなが「サトちゃん」と呼んでいたのも、私も小さいころからずっと叔母のことを「サトちゃん」と呼んでいる。サトちゃんは、周囲の人と言葉でコミュニケーションを取るのが苦手で、いつもカメラを持って写真を撮っている。運動会など行事の時はいつもこっそり来て、家族の写真を撮っている。サトちゃんは、普段の生活でも、所かまわず写真を撮りまくるので、私はよくサトちゃんとけんかをする。それでもサトちゃんは、写真を撮り続ける。

私は、サトちゃんに「一緒に写真撮ろう。」と言ったことがある。しかし、サトちゃんは「うちは、写真嫌いだから。一緒に写るのは恥ずかしいやろ。」と言って、一緒に写真を撮ったことは一度もない。だから、家族写真の中に、サトちゃんは、どこにも写っていない。サトちゃんが写真に写りたがらない理由を祖母に聞いたことがある。サトちゃんは小学生の頃は普通の学校に通っていたそうだ。最初は自分から積極的に友達に話しかけたり、家に遊びに行ったりしていた。しかし、友達はサトちゃんによそよそしく接し、受け入れてくれる友達はほとんどいなかった。遠足や行事の時も友達と一緒に写真を撮ろうとすると嫌がられたという。そんな体験が積み重なり写真に自分が写ることを嫌い、中学からは養護学校に通うようになったそうだ。

私は、学校で「障害を持つ人がいたら助けてあげる。」「障害を持つ人には優しくしてあげる。」といった教育を受けてきた。しかし、私は、サトちゃんや障害を持つ人たちと接する中で気付いたことがある。それは、彼らは特別扱いされるのではなく、健常者と同じように接してもらい、社会の中で役割を果たして生きていくことを望んでいるのだと。目の悪い人が眼鏡をかけるように、障害があっても区別や差別されることなく個性として受け入れられ、普通に社会活動を行えることを望んでいるのだ。サトちゃんは、写真を撮ることで、自分から社会活

動に参加し、家族として自分の役割を果たそうとしているのだと思う。

先月、サトちゃんは体調を崩し検査も兼ねて二週間ほど入院した。私はサトちゃんが担当していた家事をすることになった。どんなことをしたらいいのか病院に聞きに行った。

「サトちゃんがしとった家事、僕がすることになったんやけど何したらええん？」

「えーとなー、皿洗いご飯炊くのと洗濯、風呂掃除と風呂にお湯入れる。洗濯物たたむ。あとなー玄関の掃除と庭の草むしり。まだあるけど二週間やからそれくらいでええよ。」

「マジで一。サトちゃんそんな沢山家事しよったんやな。早よ退院してな。大変やー。」

「それと。病院退屈やから、うちの部屋からいくつかアルバム持ってきて。」

それから二週間、私は家事に追われる大変な日々を過ごした。今まで当たり前のように洗濯物が整理され、風呂もご飯も用意されていたのは全部サトちゃんのおかげだった。

そして、サトちゃんから頼まれたアルバムを部屋に取りに行った時、小さい頃、この部屋で一緒に本を読んだりゲームをしたりして遊んだ記憶が蘇ってきた。サトちゃんは私にとって母のような存在であり、時には姉のような存在だった。部屋の片隅に山積みされたアルバムがあった。アルバムを開くと、私の生まれた時の写真があった。その下にはこう書かれている。「家族になってくれてありがとう。」私が歩いている写真。「初めて歩いたね。いつか一緒に買い物に行こう。」運動会で走っている写真。「ガンバッタネ！」

サトちゃんは、私の知らないところでいつも見守り応援してくれていたのだ。どの写真にもサトちゃんは写っていないが、カメラを持ってレンズの向こうから笑顔で手を振ってくれるサトちゃんが、いつもそこにいた。

私たちは気付かないところで色々な人たちがお互いに関係し、支え合いながら生活しているのだと思う。障害が有るとか無いとか、そういった区別を越えて一人一人が重要で大切な役割を担って社会で生きている。障害など関係なく困っている人がいれば当たり前のように人と助け合う社会でありたい。共に生きていくために大切なことは、お互いが人として尊重し感謝し合うことだと思う。

今は、恥ずかしくて言えないけれど、いつかきっと伝えたい。

「サトちゃんと家族になれてよかったよ。いつもありがとう。」

〈詫間キャンパス 短歌〉 テーマ「音」

**最優秀賞** 舞ひ習ふ 鉦鳴りだした この町で 見る獅子舞も これで最後か

通信ネットワーク工学科 5年 佐野 圭亮

**優秀賞** 家花火 テレビの音は ひと遅れ 窓たたく音 ふたつ遅れる

1年2組

三好 克己

〈詫間キャンパス 俳句〉 テーマ「音」

**最優秀賞** 夜遅く 線香で消す 蚊の羽音

1年1組

多田 紘基

**優秀賞** 秋蝉や 眠ることなく 独り言

情報工学科 2年

馬場 裕一

**優秀賞** 夕立の 球場広がる 美爆音

通信ネットワーク工学科 3年 原 和

〈詫間キャンパス 写真・イラスト〉

**最優秀賞** 夜 景(表紙に掲載)

1年1組

白杵 俊

**優秀賞** 夜明け

通信ネットワーク工学科 2年 今井 菜乃



# 本にまつわるエッセイ

〈高松キャンパス〉

教職員

SFの視点

一般教育科 野口 尚志

SFにあまり詳しくないのだが、『プロジェクト・ヘイル・メアリー』（アンディ・ウィアー、早川書房）は、評判通りの素晴らしい作品であった。『火星の人』（早川書房、映画版の邦題は「オデッセイ」と同じ作者による、やはり〈もし宇宙空間に一人残されたら〉を描く作品で、これ以上ネタバレせずに紹介するのが難しい。ただ、この作品もSFが得意とする人類存亡の危機が設定され、そこで主人公がどう振る舞うかを描いている。

なお、この作品は既にライアン・ゴズリング主演で映画化が進行中とのことである。彼はグレッタ・ガーウィグ監督の映画『バービー』でケン役を演じているが、この（日本や韓国、イスラム圏以外では）空前の大ヒットとなった映画は何もない原野の夜明けの風景からはじまる。なぜか土の上で幼い女の子たちが赤ちゃん人形で遊んでいる。そこへ突如として巨大なバービーが出現する。女の子たちは恐る恐るそれに触る。と、彼女たちは今まで遊んでいた赤ちゃん人形を岩に叩きつけて粉碎しはじめる。

これはスタンリー・キューブリック監督『2001年宇宙の旅』の冒頭、地球外生命体が置いたらしいモノリス（黒い石板）に触れて道具を使う種族へと進化した猿の一群が、骨を武器にしてバクを打ち倒す場面のパロディである。このシークエンス「THE DAWN OF MAN」（人類の夜明け）の「MAN」（人類／男性）を、『バービー』では「WOMAN」に置き換えている。少女たちは女性＝母親という家父長主義的女性像を壊し、新たな女性のロールモデル（バービー）に目覚めるのである。

『2001年』の小説版（早川書房）を映画製作と同時進行で書いたアーサー・C・クラークは、『幼年期の終わり』（光文社古典新訳文庫ほか）でも共通したテーマを扱っている。ここでも人類を次の段階へと進化させるために地球外生命体が出てくる。その手助けを経て人類は肉体を離れて溶け合い、一つの巨大な思念としての存在へと進化する。SFの想像力は「個人」を基盤とする〈近代的自我〉など軽々と飛び越えていく。

おそらくこれにヒントを得た庵野秀明は、『新世紀エヴァンゲリオン』（旧劇場版）で、人類が一つに溶け合い、個人の孤独や他者との軋轢を永遠に取り去る「人類補完計画」を発動させる。しかし、主人公シンジはそれを拒否し、〈近代的自我〉の意味を再確認するという結末が用意される。ここで一つに溶け合うことは、全体主

義、あるいはオウム真理教の教祖・信者の一体化のメタファーとして機能している。クラークの未来への想像力に、庵野は過去から得た想像力と交錯させ、同じモチーフに全く違う意味付けを施しているのだ。

『三体』シリーズ（劉慈欣、早川書房）の第一巻では「わたしたちの文明は、もう自分で自分の問題を解決できない」という悲痛な叫びが宇宙空間に発せられることで事態が動き出す。一方で、最初に挙げた『プロジェクト・ヘイル・メアリー』は、決してH・G・ウェルズ『宇宙戦争』（東京創元社）ではなく、スピルバーグの『未知との遭遇』に近いが、人類の能力や善意をどこかで信じようとするような楽観性がある。いずれにせよ、地球外の視点を仮設することで人類全体を俯瞰するような想像力が広がる。それがSFのよさだろう。

## 学生

高松キャンパス図書館が主催して募集した「本にまつわるエッセイ」優秀賞の表彰式を、11月13日（月）に実施しました。

表彰式では、優秀賞を受賞した学生に、田中校長から賞状と記念品が授与されました。

優秀賞 創造工学専攻2年 西岡 一樹さん

「理系と呼ばれる高専生にも読書は必要なのか」



## 応募作品紹介 ※掲載は、学年順の50音順

「理系と呼ばれる高専生にも  
読書は必要なのか」

創造工学専攻2年 西岡 一樹

私は最近学校の紹介活動に取り組んでいる。そこで、香川高専を受験するだろう中学生に対して、在校生の立場から疑問点に回答したり、時には教員の代理となって

体験授業の先生役として活動したりもしている。そのような中で中学生たちから、「理系と呼ばれる高専生には数学が重要ですよ？」といった質問を受けることがある。これはその通りだ。あらゆる専門分野の基礎となる数学を軽視することはできない。しかし、一方で「国語は苦手でも問題ないだろう」といった空気を感じることもある。はたして、理系である高専生には国語力は重要ではないといってもいいのか。そして、能動的に国語力を養うことのできる読書を軽視することは問題ないと言えるのか。私の7年間の高専生活を振り返ることで、その必要性を考察してみたい。

まず、1~3年生の頃、一般的には高校生と呼ばれる時期だ。この頃は、読書をたくさんして、国語力を得ることが出来ていたとしても、その効果が発揮されたと感じられるのは国語のテストくらいだったと思う。その国語のテストについても、国語の授業で受動的に国語力は養われていたので、主体的に読書等に取り組まなくても困らない。そして、4~5年や専攻科では、国語に関する授業は選択科目となり、表面的には国語力を発揮する機会はほとんどなくなったかのように感じられることだろう。高専生には、国語力や読書といったものはなんの役にも立たないのではないか。専門教科に数学や物理の知識が大量に活用されていると、益々そのように思えてくるかもしれない。しかし、私は高専での7年間を通して、国語力は理系教科に匹敵するほど重要な能力であったと伝えたい。一見使う機会がなさそうに見えるが、特にその能力が要求されるのは卒業論文作成の際だ。これまでも、実験レポートなどで気づかないうちに要求されてはいるのだが、数十ページにもわたって論理的な文章を書く必要がある卒論では誤魔化しは通用しない。レポートでは少々読みづらい文章であっても、教員が読み取ってくれたらと思うが、論文執筆の際には何度も書き直しを要求される。国語力は言語に関する能力だ。英語力と同様に一朝一夕で身につくものではない。何度も教授に修正をされ、最終的に出来上がるものが全く違ったものになることも珍しくない。

国語力には様々な要素がある。古文や和歌などの知識・教養に分類されるものであれば、高専生であるうちは確かに必要ないだろう。しかし、文章力、読解力、語彙といった能力は論文を書く上で重要となってくる。これらがなくとも文章を書くことはできるが、それは教授が認める読みやすい文章にはならない。卒業論文は卒業要件だ。そのため、高専生として卒業するためには、間接的に国語力が要求されている。この学校において、国語力を養う機会はそれほど多くない。そのため、主体的にその能力を鍛えることのできる読書は、高専生にとってより必要なものだと言えるだろう。私はこれから香川高専に入学してくる中学生には、「理系と呼ばれる高専生だからこそ読書は必要だ」と伝えたい。

## 様々な本の使い方

創造工学専攻1年 綾野 翔馬

私はあまり本を読まず、持っている本は教科書の他にいくつかのマンガ本と数学・情報関連の気になった2冊程度で、電子書籍もほとんど読まない。最近の若者は本をあまり読まない、というような記事や言説はよく見かけるが、自分自身の経験から実際にそうだなと思ってしまふ。しかし、周りの同世代の人はマンガを読んでいたりと、小説が好きだったりする。これについて、不思議に思い、調査した。

出版科学研究所の日本の出版販売額(推定)のページでは、1年毎の本の売り上げの推移が見られる。直近20年では書籍の売り上げはほとんど横ばいになっている一方、雑誌の売り上げは毎年減少している。さらに、2014年からは電子出版も加わってきており、毎年売り上げが増加している。特に、電子のマンガの売り上げが大部分を占めているとのこと。全体として見ると、雑誌の売り上げの減少とコミックの売り上げの増加が主な動きになっていることが分かった。雑誌の売り上げが減っている理由としては、雑誌読み放題サービスが月額数百円で読めるということがあり、実際に読んでいる人が急激に減っているというわけではないようだ。コミックがよく売れる理由としては、人気のアニメの原作を読んでもという人が多いからとのこと。実際に私が持っているマンガはアニメの影響を受けて買ったものもあるので、なるほどと思った。以上のことから、若者が本を読まないというよりは、スマートフォン・タブレットの普及で本の読み方に新しい方法が出てきた、ということだと思う。趣味としてコミック本を読む人が増えたということもわかった。

私は本をあまり読まないと書いたが、単行本や小説といった最初から最後まで読むような本を読まないという意味で、本の一部を利用することはよくある。例えば、参考書や辞書、実践系のテキストなどは研究活動や予習復習に用いることが多い。これらの本は個人的にはとても役に立っていると感じる。特に、インターネットで簡単に検索しても出てこないような内容を見つけたときは面白い。

また、単行本や小説を読まないとはいえ、これらの本を読むことも大切なことだと考えている。これらの本を読むことで、言語を使うのが上手くなると考えている。例えば、このような文章を書く際に、いわゆる綺麗な文章を書く力が身につくと考えている。読み返してみたときに文章の違和感に気づくこともでき、どうすれば読みやすくなるかというのも掴めると思う。私自身は長い文章を読むことへの抵抗が若干あるが、単行本や小説を読むことで長い文章を読むことが得意になっていくと思うので、気になる本があれば読んでみたい。



趣味として、学習としてという使い方の他にも本の使い方はあると考えている。自分にあった本の使い方を見つけてもらいたい。

## 読書から離れた人へ

創造工学専攻1年 苧坂 浩貴

本は知識の宝庫であり、私たちの想像力の糧である。私たちは日々、さまざまな形態の本と出会い、その中から何か新しいことを学び、成長することができる。本がもたらす影響は、私たちの生活に不可欠なものと言えるだろう。ここでは、その魅力について改めて考えてみたい。

まず、本は知識を手に入れるための優れた手段である。図書館や書店の棚に並ぶ本は、様々な分野やテーマを網羅しており、私たちに学び、成長する機会を提供してくれる。教育の場でいえば教科書が良い例である。好奇心をくすぐるフィクションやノンフィクションの本が、私たちの知識を広げ、問題解決能力を高めてくれる。また、本は想像力と創造性を刺激する力を持っている。物語の中で登場するキャラクターや風景、出来事に共感し、感情を共有することで、私たちは他人の視点や経験を理解し、自分自身を豊かにすることができる。著者の言葉は、私たちに新たな視点を提供し、世界を多角的に見る力を与えてくれる。さらに、本は時間と空間を超えた対話の場でもあると思う。過去の偉大な思想家や文学者の作品を読むことは、彼らの考えに触れて歴史を体験するに等しいといえる。同時に、未来の可能性や挑戦について考察する際の判断材料を得ることができる。本を通じて、私たちは他の人々とのつながりを築き、知識の共有を行う。しかし、本の魅力は単に知識の伝達や感情の共有にとどまらない。新しい物語や情報に出会うことは、未知を探索する一歩となる。本は私たちを異なる文化や環境に連れて行き、自分自身を再評価、成長させる手助けをしてくれる。

その一方で、本は静けさと孤独を楽しむための素晴らしいツールでもある。本を手に取り、読書の世界に没頭すると、周りの喧噪や騒音から離れ、自分自身と向き合う時間を持つことができる。つまり、本は私たちに内省や静寂をもたらす、心の平穏を取り戻してくれる。しかし、デジタル時代の台頭により、電子書籍など新たな読書メディアが登場し、本の形態も多様化している。テクノロジーの発展に伴い、本を読む時間が減少する傾向も見られる。私もその例に漏れない。画面上の情報に囲まれ、この本による内省や静寂を逃してしまうことがある。したがって、本との出会いは私たちに多くを与えてくれるが、内省や静寂を得るためには、時間と注意を割かな

ければならない。

結局のところ、本は、私たちの生活に不可欠な存在であり、知識の源であり、想像力の糧である。本を読むことは、知識の拡充だけでなく、感情豊かな内面への旅でもある。本との出会いを大切にし、その魅力を存分に味わうことで、私たちはより豊かな人生を送ることができるだろう。本との出会いは、新しい視点の獲得に寄与し、私たちの心を豊かにしてより良い未来へ導く一助となる。私自身も含め、読書から離れてしまったすべての人に、本がもたらす出会いや平穏が喜びと成長をもたらしてくれることを願う。

## 本の面白さ

創造工学専攻1年 山下 隆之介

小学生や中学生の夏休みのときは「読書感想文」ばかり書いていたので、「エッセイ」を書くことは、初めての挑戦だ。ふと、「エッセイ」という言葉が気になったので調べてみた。その意味は、「自分の体験したことや考えを文章で書き綴ったものとされている。」と出た。それを理解したうえで、「本」について自分の考えを述べる。

私は読書が少し苦手だと思う。その理由は、文字を読んで場面を想像するのに少し時間がかかってしまうからである。例えば、文庫本は、やけに恋愛描写が多い気がする。私は恋愛経験がなく話が入ってこない。それに加えて飽き性である。故に私は読書が苦手なのだと思う。

少し前の話になるが、高専入学前、読書は“嫌い”だった。その理由は、中学校の国語のテストで、納得の行かない点数を取り続けていたからだ。事実、高専を決めた理由の一つに国語の勉強から離れられると考えたからだ。

高専3年生まで国語は必修科目で受けなければならなかった。しかし、高専で学ぶ国語は、何故か読書に対して嫌いな意識がだんだん薄れ、のめり込んでいた。先生の解説で自分とは異なった解釈を新たに発見し、筆者が意図するものが掴めた気がして面白かった。

高専の授業で扱った2つの作品を通して、本の面白さを少し共有する。

まず1つ目は、夏目漱石の「こころ」だ。Kに向かって放った「精神的に向上心のないものは馬鹿だ。」という言葉が、Kの突然死につながることに驚いた。主人公とKの中での“覚悟”の違い。Kに関してお嬢さんに伝えることなく、罪の意識を一生背負いこんで生きていたことが容易に想像でき、恋愛面ではうまくいったものの、淋しさが感じられた。人間は動物の中で「こころ」が存在する特別な生き物だと思った。

次に2つ目は、小川洋子の「果汁」だ。彼女が男（実の父）と久しぶりに出会い、その男の態度で哀しみの発作

がおき、そのまま「キーウイ」を皮ごと貪り尽くした姿を見せたことがグロテスクで魅力的だった。それから、元の大人しい姿に戻るが、元の彼女とは異なっていて、今の彼女はきっと成長しているのだろうと感じた。ぜひ読んで頂きたい。

私の中で、読書が“嫌い”と“苦手”は少し違う。

“苦手”は、作者の意図するものが自分自身の力ではまだ発見できていないだけである。

今後、本を読む習慣をつづけることで苦手意識が薄れるかは分からないが、1ヶ月に1冊読むつもりだ。自分では気づけなかった「本の面白さ」を教えてくれた高専の先生に感謝したい。

## 教員・学生による推薦図書

※推薦図書は図書館で貸出できます。

### 教員〈高松〉



#### ころ

▶ 夏目 漱石 (著) 〈新潮文庫〉

私の年齢になれば、「ぼくの心のやわらかい場所を今でもまだしめつける」ものがいくつかある。その一つが、夏目漱石の『ころ』。何度も読もうとするが、挫折することである。

『ころ』は日本文学の名作である。『ころ』との出会いは、私が高校時代に国語の教科書で。皆さんが本科2年の国語の授業で出会うように。私の『ころ』の記憶は、Kが登場する、テストに出るので夏目漱石の漢字を覚えた、感想文で「大人になったら『ころ』を読み返したい」と書いたこと、である。私は「あのころの未来に」いるが、まだ『ころ』を読破していない。「夜空のむこうにはもう明日が待っている」。私は、いつ『ころ』を読むのだろうか。葛藤が続く。

みなさん、是非、『ころ』を読んでみてください。

一般教育科教員 立川 直樹

#### 67のトラブル事例で学ぶEMCとノイズ対策

▶ 辻 正敏 (著) 〈森北出版〉

電子機器を製作したとき、外部ノイズや自身が発生するノイズにより回路が誤動作することがよくあります。試行錯誤でノイズ対策しても、時間がかかるばかりか、その効果は十分とは言えません。効率よくノイズ対策をするには、そのしくみと対策方法をよく理解しておくことが大切です。本書は、実際に起こるノイズ問題の事例を取り上げ、それを通してノイズが発生するしくみと対策方法が分かりやすく解説されています。難度の高い数式は使用せず、イラストを多く使って説明されているのでノイズの振る舞いをイメージできます。ノイズに困っている人の助けになればと思い執筆しました。

電気情報工学科教員 辻 正敏

#### イヌの気持ちがおもしろいほどわかる本

▶ イヌとの暮らしを楽しむ会 (著) 〈扶桑社〉

幼少期、猫派だった私の家では、ヘテクロミア(金銀妖瞳)の白猫のシロを長年飼い、とても可愛がっていました。そんな私が犬好きになるとは。ここ20数年、柴犬を飼っています。赤、黒、白と様々な毛色の柴犬を飼い、現在は白柴のハルと暮らしています。この娘は変わった柴犬で、人にも犬にも警戒心はなく、初対面の方のダッコもOK、ドッグランでも他の犬とすぐ仲良しになります。でも行動理由が分からないことも多々あります。

どう接してよいか困惑したときのバイブルが、本書「イヌの気持ちわかる本」です。イヌの行動から見える秘められた気持ちが約67件のエピソードとともに解き明かされ、イヌの気持ちを読み取るヒントが一杯詰まっています。イヌと一緒に暮らしている学生さんはぜひ手に取って見ては。

機械工学科教員 山崎 容次郎

#### 不機嫌な長男・長女 無責任な末っ子たち

▶ 五百田 達成 (著) 〈ディスカヴァー・トゥエンティワン〉

著者によると「人の性格は“きょうだい型”に支配されている」とのことです。本書では兄弟構成を長子・中間子・末子・一人っ子の4タイプに分けて性格分析し、その行動様式について解説していきます。

このなかで、みなさんも気になる「将来の進路」については「長子は道を切り拓く」「末子はラクな道を行く」「中間子は道に迷う」「一人っ子は我が道を行く」と説明されています。いかがでしょうか、当たっていますか？

機械電子工学科教員 相馬 岳

### 建築の絵本 建築構造のしくみ<第二版> 力の流れとかたち

▶ 川口 衛・阿部 優・松谷 宥彦・川崎 一雄 (著)  
(彰国社)

私たちの暮らしを支えるあらゆる構造物は、常に力を受け続けており、加えて地震や台風等にも耐え得るように、構造物の十分な安全性を確保する事は重要です。

構造物に求められるもう一つの役割は、構造物としての「美しさ」です。この「美しさ」の実現には、重要な前提条件があり、構造物の中を流れる力の大きさや原理に適合しているフォルムのみが実現可能という事です。是非、本書を手にとって、私たちの生活を支え、快適なものとする構造物の「ちから」と「かたち」の深い関わりに触れてみませんか。

建設環境工学科教員 松本 将之

### 夢をかなえるゾウ

▶ 水野 敬也 (著) (文響社)

私はほとんど本を読みません。そこで何かないかと考えたのですが、過去に題名を見てひかれ内容をみて色々考えさせられた本を紹介します。

うさんくさい像の頭の神様が登場し「僕」に課題を課し、僕がその課題をやり遂げていくという内容です。課題自体は簡単なものですが、そこから何が得られるか非常に考えさせられる内容となっています。テレビドラマになっていましたが『夢をかなえるゾウ』、機会があれば読んでみてください。

電子システム工学科教員 三河 通男



## 学生<高松>

## 教員<詫間>

### 世界でいちばん透きとおった物語

▶ 杉井 光 (著) (新潮社)

最近、教科書以外に紙の本を手取る機会はありますか？電子書籍の一般化や人気の物語はすぐにアニメ・ドラマなどのメディア化がされ、ほとんど紙の本を読む機会がないのではと想像します。

みなさんに紙の本を読んでほしいという思いがあり、「世界でいちばん透きとおった物語」を推薦します。推理小説家の父親が遺した小説を軸に物語が展開します。ある仕掛けにより、他のメディア化が不可能です。紙の本で読んでみてくださいね。

一般教育科教員 大橋 あすか

### 知識ベース「知識の森」

▶ 電子情報通信学会

電子情報通信分野に関係する基盤となる知識が公開されています。学会員でなくても誰でも無料で読むことができます。学校の勉強は難しく面白くない。でも、最先端の工学知識は知りたいと思っている学生に読んで欲しいと思います。分野で18群、119編が公開されていますが、まずは興味のある単元を読むといいと思います。

<https://www.ieice-hbkb.org/portal/>

通信ネットワーク工学科教員 小野 安季良

### 数学ガールの秘密ノート 丸い三角関数

▶ 結城 浩 (著) (SBクリエイティブ)

みなさん突然ですが、三角関数は円で表せると言われてすぐに理解できますか？この本は一見全く別物の円と三角関数を視覚的にも文章的にもわかりやすく、その関係を楽しく説明してくれます。三角関数というと、どの学科もおそらく使うものでしょう。ですが、得意な人と苦手な人の差が大きいと思います。疑問に感じているところが対話形式で物語が進んでいくので、読書が苦手な方でも内容がわかりやすいと思います。ぜひ一度読んでみてはどうでしょうか。

1年1組 (EC) 大嶋 琴音

### あんさんぶるスターズ! 革命児の凱歌

▶ 日日日 (著) (KADOKAWA)

私が初めて『あんさんぶるスターズ!』を手にしたのは中学1年生の時、休校明けの図書室でした。初めは恋愛ものだと思っており抵抗を抱いていましたが、いざ読んでみると登場人物の奇行に笑ったり、理不尽な仕打ちに悲しくなったり、行き過ぎた全体主義に怒ったりいろいろな側面を含む本でした。また、本作には、アイドルのライブを点数化して競うドリフェスという独自のバトルが存在しており、特訓に励む様子や策略を駆使し格上の相手と闘う様子も見られて、とてもわくわくする本です。目標達成への過程でかなり葛藤や困難を経るので、終わりよければすべてよし、というスタンスの人に向いていると思います。

1年1組 (EC) 佐伯 粋花

## すずめの戸締り

▶新海 誠 (著) (KADOKAWA)

私が思う「すずめの戸締り」の見どころは、主人公である岩戸鈴芽が閉じ師の宗像草太との旅を通して成長していくところにあると思います。

九州から四国、関西、東京、東北と移動していく中で、個性豊かな人たちに支えられ、時に母親と本音をぶつけ合ったり、目標のために勉強をしたりと、成長する鈴芽を見ることができます。そして、作品を見た後には自分も勇気づけられ、周りにある物や人の大切さを実感することができる作品です。

1年4組 (CV) 森元 大雅

## 風の谷のナウシカ

▶宮崎 駿 (著) (徳間書店)

風の谷の族長ジルの娘であるナウシカは、トルメキア公国と土鬼 (ドルク) 諸国連合の戦争にトルメキアの招集を受け参戦しないといけなくなる。腐海に覆われた大地で行われる一大戦争の中で、彼女は様々な人と出会い協力し戦争の目的、そして世界の真実を突き止める。宮崎駿が圧倒的スケール、繊細な絵、迫力で腐海の世界で生きる人々そして生き物を美しく、たくましく描く群像劇。キャラクターも多くストーリーもややこしい。だがきつと読み切ったとき確かな達成感と感動があなたに訪れるだろう。

機械工学科2年 尾野 彰信

## ムゲンのi

▶知念 実希人 (著) (双葉社)

今回私が推薦する本は、知念実希人氏の『ムゲンのi』という本だ。

この本の内容を話すと長くなってしまうので割愛するが、私が率直に思った感想としては、全体の構成は同氏の『祈りのカルテ』を思い起こさせ、最後のフラグを回収し、盤面を覆される感覚は昨年に推薦した『硝子の塔の殺人』に通ずるものがあった。

そのため、この本を読む際は、先に示した二冊の本を経由するとより楽しめるだろう。

電気情報工学科2年 笠井 悠生樹



## 空想科学読本

▶柳田 理科雄 (著) (KADOKAWA)

私の紹介する本は、空想科学読本という本です。この本は、私たちがよく見たり読んだりするアニメや、漫画などよく知られているお話を科学的に考えた内容が書かれている本です。「仮面ライダー」や「エヴァンゲリオン」、「アンパンマン」など本当に誰もが知っている物語について書かれており、「エヴァンゲリオンがものすごい速さで走ったとき周囲はどうだったのか」や「アンパンマンは、ばいきんまんにハンマーで殴られても凹むだけなのに、その顔を自分でちぎるすごさについて」など普段見たり読んだりしているだけでは到底考えることのないような内容に着目して書かれています。話の内容は短めで、短時間で読みやすい長さですので、是非読んでみてください。

機械電子工学科3年 植田 空紅

## 金融義賊

▶エフ (著) (実業之日本社)

今回私が紹介する本は『金融義賊』です。この物語は著者の大学での就職活動支援経験から書く、日本の格差問題や資本主義を取り扱った作品です。主人公は証券会社の社員として金持ちから信用を集め、自らの正義を行使するため、ある計画を実行します。その内容はこの本を手にとっただけで確かめてください。

建設環境工学科3年 秋澤 弘大

## 多様体の基礎

▶松本 幸夫 (著) (東京大学出版会)

この本を読み始めたのは3年生の春休みごろからでした。微積分と線型代数と多少の集合と位相を予備知識として仮定していたので、多様体の勉強をするのにこの本を選びました。多様体というのは、普段自分たちが扱っているまっすぐな空間での座標を曲面上に繋ぎ合わせてはりつけたようなもので、これによって曲面の上で微積分ができるようになります。現代数学の入門である多様体の基礎について明快な説明がされていて、とても読みやすく面白い本です。

電気情報工学科4年 長谷川 昂希

## 数学ガール

▶結城 浩 (著) (SBクリエイティブ)

数学を愛する登場人物たちが、受験数学で扱うような問題から未解決問題まで幅広いトピックについて語り合う本。この本を読むことで、教科書では天下りの与えられる公式の、泥臭い導出過程をしっかりと確認することができる。数学が得意ではない人も、登場人物の掛け合いを楽しんでいる内にいつの間にか数学への抵抗が薄くなる。数学にある程度精通している人も、大学の勉強に繋がるような高度な課題を楽しめる。

機械電子工学科4年 熱田 流斗



## 港町の近代 門司・小樽・横浜・函館を読む

▶ 岡本 哲志、日本の港町研究会（著）〈学芸出版社〉

私が推薦する本は『港町の近代』という本です。明治以降急速な近代化が進んだ日本は、諸外国との交易のために西洋の近代的な設備を導入した港を建設するようになります。その過程で人や物、金が集中・蓄積し、それらが港を中心とした近代的な都市の形成にも繋がっていく部分について語られています。

また、この本で取り上げられているそれぞれの港が、地層・立地・産業形成・風土・歴史的経緯といった観点から紹介されており、この本を読む前と呼んだ後で港町の見方がかなり変わると思います。

機械工学科5年 西濱 光琳



## 学生〈読間〉

## お任せ！数学屋さん

▶ 向井 湘吾（著）〈ポプラ社〉

数学が苦手な主人公、遥のもとに、数学が大好きな転校生、宙がやってきた。彼は「数学の力で世界を救うこと」が夢で、ある日「数学屋」なる、どんな悩みも数学で解決するという店を教室で開店する。様々な悩みを解決する宙の姿を見ながら、遥は、数学の魅力にどんどんと引き込まれていくこととなる……。数学が苦手な人でも、ちょっと数学って面白いかも、数学ってこんな風に世の役に立てるんだ、と思える、素敵な作品です。

電気情報工学科5年 野々村 望

**实用メカニズム辞典  
機械設計の発想力を鍛える機構 101 選**

▶ 岩本 太郎（著）〈森北出版〉

本作品は題名の通り専門的なことが書かれているため、機械設計に興味がない人はなかなか手に取りにくい本だと思っています。そのため、今記事を通して、簡潔にお勧めする理由を2点紹介させていただきます。

1点目は、普段私たちが何気なく使用している自転車や車などの動作原理を分かりやすく説明していることです。

2点目は、機構として完成したものを見ることで、工作や建築ゲームをするときなどに、普段とは違う視点で物事を見るきっかけになるかも知れないからです。自分がこれまで培ってきた価値観とは別の方向で見てみたい人は、是非手に取って読んでください。

機械電子工学科5年 佐藤 佑海

## 僕とアリスの夏物語 人工知能の、その先へ

▶ 谷口 忠大（著）〈岩波書店〉

私がこの本を借りた理由は、この本の裏表紙に書かれているあらすじを読んだとき、知識が無い状態から、人から多くのことを学び取り成長する人工知能と主人公の関係がどう変化していくのかが気になったからです。

この本は、小説が1話あり、次にその話を著者が解説するというものを繰り返して進んでいきます。小説を読み内容を知ってから解説を読むことで、人や人工知能の考えや行動が一体どんなものなのかを理解できます。

小説の感想は、最初のうちは何も知らない人工知能に主人公たちは振りまわされますが、少しずつ成長していく人工知能に対する主人公たちの態度や反応の変化がとても面白かったです。また、主人公の学校での人間関係が小説を読み進めていくとよく分かります。それが人工知能が関わることによって変化していく様子が、読んでいてワクワクしました。

1年2組 (IT) 中村 一樹

## 星の子

▶ 今村 夏子（著）〈朝日新聞出版〉

主人公のちひろが、おかしな宗教にはまってしまった両親に育てられ、徐々に破滅の方へと進んでいってしまうというお話です。「星の子」というタイトルを見て惹かれて手に取って見たのですが、自分の想像していたものとは違い、また内容もとても興味深く、しかもこの小説は読んでいくと、まるで自分も「星の子」という宗教にはまってしまっているような不思議な感覚になりました。作中で出てくるちひろの姉のまさみや親戚の雄三おじさんが、狂ってしまった両親とちひろを宗教から離れさせようとするシーンがあるのですが、そのシーンでのちひろの考えがとてもおもしろく、盛り上がる部分のように感じました。この「星の子」を読んでいくと、今までにない小説の感覚が使われている気がしてとても面白いので色々な人に読んでいただきたいです。

電子システム工学科2年 貞光 蔵之介

## 5分で読める！怖いなし

▶ 井上 雅彦 (著) (宝島社文庫)

タイトル：吸血鬼と猫

9月19日、日本語の知識と理解を深め、強化し、向上させるために図書館に行き、この本を借りた。マレーシアからの留学生として、特に小説を読むことは、物語の設定、言葉の意味、物語の中に隠された意味や微妙なメッセージを示すニュアンスなど、物語の様々な側面を理解する必要があるため、難しいことである。

マレーシアでは、読書は常に私の趣味の一つであり、人生とそのものに対するさまざまな世界観に触れることができる楽しいものだった。この本の中の「横切る」と題されたこの小説の第1話は、吸血鬼と世界中の吸血鬼のさまざまな童話について説明する男から始まった。男はこの話を猫に説明していた。そして男は、吸血鬼の起源である魂がないことを条件に、猫が死者を生き返らせることができるという童話を説明した。最後に、猫を死体の上を飛び越えさせることで、死者を蘇生させるのだ。

通信ネットワーク工学科3年 アキル

## The Very Hungry Caterpillar

▶ Eric Carle (著) (Philomel Books)

私のおすすめの本は「はらぺこあおむし」の英語版です。1年生の表現コミュニケーションの時間に多読のために借りました。

この本をおすすめする理由は、誰もが知る「はらぺこあおむし」を英語で読むことによって、英語に親しみやすくなるからです。私自身、英語が苦手なのですが、日本語の内容を知っていたため、とても読みやすかったです。それに加えて、英語の表現も学ぶことが出来てとてもいい経験になりました。簡単な英単語ばかりなので、英語が苦手な人にもおすすめです。

情報工学科3年 菊田 空良

## 論理哲学論考

▶ ウィトゲンシュタイン (著) (岩波書店)

この本は、1918年にオーストリアの哲学者ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインが完成させた哲学書である。この本は、他の哲学本とは一線を画す存在として扱われていることを私はよく目にすることがあった。その理由は序の部分で彼が述べた“哲学の諸問題は言語の論理に対する誤解から生じている。本書の意義を要約すると、およそ語られることには明晰に語られる。そして、論じえないことについては、ひとは沈黙せねばならない。”(一部要約)というものである。

彼は本書の中で世界を事実の総体であるとし、事実を写像したものを像と定義した。そして像の中でも思考を用いた。このために、要素命題(可能性を射影する知覚記号)を最小単位に分解したもの(これは名で構成される)に論理操作を加えてあらゆる複合命題を作り出し、これ以上語られないものを思考の限界=世界の限界と表し、これより向こう側を「ナンセンス」として見せたのだ。

本書に対する私の率直な感想としては、ものすごく頭が痛くなる本だというものである。しかし、だからと言って本書は私にとって読む価値なしというものでは決してない。私は本書の六・四から始まる倫理の話が魅力的であると感じた。ウィトゲンシュタインは、本書の最終段階にて幸福な生について示した。六・五二、六・五二一にて語られるものは、生きるという意味の問いに対する哲学的回答ではなく、言語の限界を超えたことによる問の消滅であった。「幸福に生きよ！」これが彼の知る人生の目的である。これより先は謎であり、六・五にて謎が存在しない今、語りえぬものとして沈黙しなければならない。「六・五二二だが、言い表しえぬものは存在する。それは示される。それは神秘である。」

この本を読むにあたり、私は動画サイト等で解説動画を視聴したりもしたが、論考に対する理解度は皆無に等しいと確信している。それでも天才が示した論理を垣間見られるだけでも本書を手取る価値があると思う。

通信ネットワーク工学科4年 瀬尾 光

# 教員によるエッセイ

## 冊子体による読書のススメ

機械電子工学科教員 相馬 岳

今回は高専生にとって大切である読書のスタイルについて、最近、ふと考えたことを記したいと思います。

最近では電子媒体による図書が数多くネット上に流布し、冊子体による図書、すなわち「本」が売れない時代となり、書店の数が激減しているとニュースで知りました。そのニュース自体もネットから得た情報なので、昨今のネットの普及はすさまじいものがあると感心する次第です。確かに短時間で大量の情報の中から見たい(知りたい)情報を検索し、ヒットしたものに優先順位を付けて、その上位

から閲覧するのはネットのほうが便利でしょう。同じ事を紙の本や新聞等でやろうとすると、作業量がすさまじく膨大になり大変なことになります。

しかしながら、私は「紙」派で、研究で必要とする論文等の資料は必ず「紙」に印刷してから読むタイプであり、趣味の読書についても冊子体を購入して読むスタイルを取っています。最近では街中の書店よりネット上の大手通販から購入することが多いのですが、それでも電子書籍ではなく冊子体ばかりです。また、旅行やツーリングで長距離・長時間移動する際は、必ずウエストバッグに新書を一冊入れておきます。

では、電子媒体に比べて冊子体のメリットとは何でしょうか？私の意見としては、①目や体に優しい、②永続性がある、③電池(バッテリー)残量や通信容量を気にせずに済む、の3点だと思います。①について電子媒体であればス

マホかタブレットかパソコンの液晶画面を長時間見ることになるので、ドライアイになるのみならず肩こりも誘発します。②について冊子体は一度入手してしまえば手元に残り、得られた情報に永続性がありますが、電子媒体では配信元において不都合があればすぐに閲覧不能になります。そして、配信サービス自体が終了すれば手元に情報が残らないケースが多いと思います。③はどんなにハードウェア・ソフトウェアや通信網が発達しても、手元のスマホやタブレットが使用できなければ見ることができず読書が成立しません。さらに、サッと見たいと

きにその都度スマホやタブレットを起動する時間や検索する手間が生じます。

そして、最後はやはり格好良さではないでしょうか？男子でも女子でも、それなりのタイトルの冊子体の本を読んでいる姿は凛々しく知的です。スマホやタブレットでは、ゲームをしているのかSNSに耽っているのかネットコミックに熱中しているのか分かりません。さて、高専生のみなさんも冊子体による読書でひとつ上の高専生を目指しませんか？

## 図書館委員長より

### 図書館利用のすすめ

高松キャンパス 図書館委員長  
機械工学科4年 長尾 拓哉

皆さんいかがお過ごしでしょうか？今年も読書の秋がやってきた、ということで今回は図書館利用のすすめと図書委員が毎年、行っていることについて紹介したいと思います。

まず始めに、高専の図書館には一般の図書館にはない要素がいくつかあります。その内の一つとして、専門書を多く取り揃えているということです。図書館には約10万7千冊もの本があり、その内の約4割（令和5年度）が専門書です。レポートを書く際に「専門用語が分からない」と感じたり、授業で「分からないところがあった」などと困ったりした際には、ぜひ図書館に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。また、専門書以外にも漢検や英検、TOEIC等の資格を取得するのに便利な本もあり、勉強するスペースもありますので、試験勉強をするのもってこいの場所となっております。私もよく利用しています。

次に、図書委員が学校で行っている年間行事について紹介したいと思います。現在、図書委員では年に2回ブックハンティングとビブリオバトルを行っています。ブックハンティングとは、学生が実際に本屋へ行って、決められた予算で図書館に入れたい本を直接手に取って選ぶことです。学校からバスに乗って向かいますので、興味がある方はぜひ参加してみてください。ビブリオバトルとは、学生が決められたお題の中で自分の好きな本・他の人にも読んでもらいたい本を紹介し、その後ディスカッションを行い、最後に参加者全員による投票によって「読みたくなった本」＝「チャンプ本」を決めるというものです。2年前に導入されたばかりで、まだまだ参加者が少ないですが、自分の好きな本を発表できる貴重な場でもあり、自分の未知なる世界に気づける貴重な機会ですのでぜひ参加してみてください。

最後に、私たちは皆さんが読んで面白いと思える本を多数取り揃えていますので、気になる本がありましたら、ぜひ図書館に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。また、試験勉強をするのにも最適な場所でもありますので利用してみてください。

### 図書館利用のすすめ

詫間キャンパス 図書館委員長  
通信ネットワーク工学科4年 近藤 大和

皆さんは普段、読書をされていますか？本には文学、歴史、哲学、専門知識など、広範な分野で新しい知識を得ることができ、スキルの向上にも寄与します。文化には過去と現在、異なる文化について知ることで異なる価値観を理解し、対話力や理解力を向上させることができます。そのため、読書は知識だけでなく他者の経験を知る手段であり、新しい視点を見つける助けにもなります。また、読書にはストレスや疲労の軽減にも効果的です。

自分の好きなジャンルや作家の本に没頭することで、日常の課題やプレッシャーを一時的に忘れ、精神的に安定した心を保つことができます。これが心身のリフレッシュに繋がります。

さらに、読書は新しい知識やアイデアに触れ、専門的な分野について学ぶ手段ともなります。自分の興味を追求することで、専門知識を深め、自分自身の専門性を高めることができます。これが個人の成長や職業的なスキル向上に寄与します。

つまり、読書は豊かな人間関係や知識の獲得だけでなく、ストレスの軽減や個人のスキル向上にも大いに役立つ活動です。是非、日常に取り入れてみてください。

# 専攻科生より



## 図書館という名のダンジョン

創造工学専攻2年  
山下 至

「ダンジョン」。

響きがとてもいい。

昔からRPGをやりこんでいた私からすると胸が躍るワードだ。タイトルで「図書館という名のダンジョン」としているが、別に、図書館に入るためにランク制限があるだとか、椅子に座ったら実は椅子に擬態したモンスターで食べられちゃう、なんてことはない。安心して図書館という空間を利用して欲しい。まあ専攻科2年生(21)にもなって「図書館」とか「図書室」とかに苦手意識があって、自分が行きたくなるようにするために隠語として使っただけである。だって友達と話しているときに急にそいつが「ヤバイ！課題終わってない！そうだ、ダンジョン行ってくる！！」なんて言い出したら面白いし、なんなら「俺も！お供するわ！」みたいなノリに発展するかもしれない。想像して欲しい。図書館には、課題解決の糸口になるようなお宝参考書とか、魔物みたいに恐ろしく分厚い参考書が本棚にギッシリ敷き詰められている。世の中には後者の意識が強くなっている人もいる

だろうが、魔物を倒すとレアアイテムがドロップするように、魔物のような参考書も読んでいるうちに自分が一番欲している情報にありつけるかもしれない。そう捉えて、私は数多もの試練を乗り越えてきた。

ここまで長々と話してきたが、とりあえず「図書館はなんか凄いところ」っていうことが伝わっていればいいと思う。静かな空間ということもあり、自主勉強という名のレベリングのために、ペンとノートを装備して必要な本を発掘して勉強できる。今持っている教科書だけでは太刀打ちできない難題も図書館にあるお宝参考書で突破できる。しかも本はジャンル分けされているし、PCで調べて、お探しの本がどこに置いてあるのかサーチできるときだ。ふと寄ってみて本棚を眺めていたら面白そうなタイトルの本があったり、本だけでなくCDも置いてあったりするではないか。私は、7年間も本校の図書館を利用しているが発見が尽きない場所である。本当に凄い場所だ。騙されたと思って一度は立ち寄って欲しい。そして自分が「これだ！」と思えるような、そんな最高の一冊に出会えることを願っている。

ただ利用する際は、図書カード持参だとか、静かに利用するだとか、皆が気持ちよく利用できるように協力していただけたら幸いです。

## 読書を始めてから続けるための3つのステップ

電子情報通信工学専攻2年  
2-A1 安田 拓海

私はどちらかというと本を読むのが苦手です。文字を見ると眠たくなり、本を読む時間があるぐらいならゲームをする。そんな人間でした。しかし、アルバイトを始めて変わりました。周りに本がある環境でアルバイトを行うことで気になった本を手にとるようになりました。気になった本を手にとることを繰り返しているうちに、次第に「本を読む」ことの良さに気付くようになりました。

私が本を読むことを避けていた理由として、インターネットを使って情報収集をした方が自分の必要としている情報がピンポイントに時間もかからず効率的に手に入れることができると思っていたからです。しかし、本からの情報収集は得られる情報の質がインターネットと比べものにならないと思います。筆者が自分に思いを伝えるために時間をかけ、何百というページによる情報凝縮された高い質の情報収集を行うならば一番効率が良いと、考えを改めるようになりました。本を使い情報収集を行

うことで関連した新たな気づきや知識になりました。

本を読むことで気づきたいところはまだまだあります。それは、自分の体験したことないたくさんの世界に旅行できる事です。自分が物語の主人公になったつもりで世界を救った気持ちになるのもいいと思います。また、偉人伝や有名人のビジネス本やエッセイを読むことで気持ちに寄り添っていて真似してみるのもいいと思います。私はよく勉強に詰まった時に本を読んでいろんな世界に没頭し現実逃避します。今まで一つの角度からしか考えられなかったことも様々な思いや世界に触れることで、いろいろな方面から考えることができるようになり、世界が広がります。帰り道にある看板に面白さを見つけられるようになるし、いままで好きじゃなかった人を好きになるかもしれません。

もしかしたら、「本を借りたらすべて読まないといけない」や「本を読む時間がない」と思っていないですか？そんなことはありません。結局読まなくてそのまま返してもいいですし、読む時間が足りなかったら延長したいとおっしゃってください。また、「ドラマやアニメを見て原作が気になるけど図書館に無いな」と思った時は購入のリクエストをしてください。

少し気になった、本が目についた、本が落ちてきた、そんな本との出会いを大切にしてください。



## ブックハンティング紹介

### ●高松キャンパス

高松キャンパス図書館では、宮脇書店総本店（朝日新町）で、恒例のブックハンティングを6月8日（木）、11月9日（木）の2回実施しました。

参加学生は、クラス毎のグループに分かれて選書を行い、理学、工学、技術、プログラミング、語学、進学、資格取得、ビジネス、文学、歴史、趣味、料理など、様々な分野で思わぬ本との出会いがありました。

選ばれた本は図書館のブックハンティングコーナーに展示しています。皆様ぜひとも図書館にお越しください。きっと新しい発見があります。



### ●こんな本が選ばれました

6月8日（全85冊）

- ・Python ではじめる音のプログラミング
- ・小説 すずめの戸締まり
- ・西洋の名建築 解剖図鑑
- ・今と未来がわかる電気
- ・TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ
- ・日本の珈琲
- ・「からくり設計」実用メカニズム図例集
- ・夜に駆ける
- ・フィギュアの教科書 原型入門編
- ・咳をしても一人と一匹
- ・ジブリの立体建造物展 図録〈復刻版〉
- ・橋をデザインする

11月9日（全98冊）

- ・ニュートン新書 音楽と人のサイエンス 音が心を動かす理由
- ・「サイバーセキュリティ、マジわからん」と思ったときに読む本
- ・ChatGPT vs. 未来のない仕事をする人たち
- ・外来種は悪じゃない
- ・エイリアン・ブループリント 超詳細 メカ図面集
- ・志麻さんの“おうちビストロ”（日曜日の台所）
- ・国鉄型普通電車が走る 日本の鉄道風景
- ・文豪ストレイドッグス 55Minutes
- ・基礎からの土質力学
- ・はじめての3D モデリング Blender3 超入門
- ・結物語
- ・英文読解の透視図

### ●詫間キャンパス

詫間キャンパス図書館では11月5日（日）に、宮脇書店本店（高松市丸亀町）でブックハンティングを実施しました。11月にしては暖かな日曜日に、1年生から専攻科生までの6名が参加しました。

今回は、専門書・小説・ベストセラー本等の多くの分野に目を向けてブックハンティングをしてもらいました。各人予算を目一杯使い、全体で約1時間半かけて30冊ほどの本を選びました。書店の中から皆思い思いに選び出してきた本は、購入しようと狙っていた本から、書棚の隅っこから掘り出してきたような本まで様々です。

図書館に来て、ぜひ手にとって見て下さい。タイトルを眺めるだけでも楽しいと思います。

### ●こんな本が選ばれました

- ・公孫龍
- ・風土記博物誌
- ・霞が関のリアル
- ・精神科医が教えるストレスフリー超大全
- ・「こうあるべき」をやめなさい
- ・それ、数学で証明できます。
- ・一生モノのビジネス教養 データサイエンス



## ビブリオバトル紹介

高松キャンパスでは、今年度の「ビブリオバトル」を2回開催致しました。当日は、発表者が1人5分間の持ち時間でおすすめ本を紹介し、その後、参加者全員によるディスカッションを行い、和やかな雰囲気の中、紹介本についての魅力を語り合いました。

すべての発表終了後、参加者全員による投票の結果、「チャンプ本」を決定しました。

### <第4回> テーマ「ミステリー」

◆日 時：令和5年8月7日（月） ◆参加者：学生・教職員 16名

発表者と紹介本

・建設環境工学科3年 秋澤 弘大さん

**第4代 チャンプ本** 「死にゆく者の祈り」

中山七里（著）、新潮文庫、2022年

・機械工学科4年 福岡 忠之さん

「スウェーデン福祉大国の深層 金持ち支配の影と真実」

近藤浩一（著）、水曜社、2021年



### <第5回> テーマ「ホラー」

◆日 時：令和6年1月11日（木） ◆参加者：学生・教職員 16名

発表者と紹介本

・建設環境工学科3年 秋澤 弘大さん

「変な家」 雨穴（著）、飛鳥新社、2021年

・機械工学科教員 木村 祐人さん

**第5代 チャンプ本** 「首無の如き祟るもの」

三津田信三（著）、講談社、2010年

・機械工学科3年 永原 蒼大さん

**第5代 学生チャンプ本** 「闇に染まりし、闇を祓う」

はやせやすひろ（著）、サンマーク出版、2023年

・機械電子工学科4年 シヨウさん

「闇祓」 辻村深月（著）、KADOKAWA、2021年



## 図書館からのお知らせ

1. 両キャンパス間の相互貸出をおこなっています。読みたい本が図書館にない時等は気軽にカウンターへ声をかけてください。
2. 本、CD、DVDの購入リクエスト、貸出中の資料の貸出予約も常時受け付けています。

3. 蔵書検索はこちら

読み取れない場合は、  
<https://libopac-c.kosen-k.go.jp/webopac41/cattab.do> にアクセスするか、

高専ホームページ  
メニュー「施設案内」→「図書館」→「蔵書検索」  
をクリックしてください。



### 図書館閲覧室の開館時間

**平日** 8:30～20:00

（長期休業中は17:00まで）

**土曜日** 10:00～16:30

（長期休業中以外）

※詳細は図書館（開館）カレンダーをご確認ください。

※自然災害等により臨時閉館する場合があります。

### 一般利用者（保護者）の皆様へ

本校の図書館は、一般の方へも開放しており、貸出（予約）も可能です。理工系図書が中心ですが、香川県郷土資料や教養・実用・娯楽の図書、雑誌も多数取り揃えていますので、是非ご利用ください。

なお、学校行事等で開館日が変更することがありますので、来館される場合は、香川高等専門学校ホームページ（メニュー「施設案内」→「図書館」）に掲載している図書館カレンダー及び図書館利用案内を確認されてからお越しください。